

# 甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和3年2月10日(水)

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

## 学校関係者評価委員会

実施日：令和3年2月5日(金)午後3時30分から4時30分

会場：甲斐市立竜王小学校 会議室

参加者：学校評議員：森澤ひとみ・篠原美代子・碓井和幸  
小尾平明・島田明人  
PTA本会役員：萩原健一・手塚友巳・秋山淑子  
学校側：校長 小尾一彦・教頭 坂本なおみ  
主幹 久保田勲・生指杉山ひとみ

### I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

### II 協議された主な内容

#### 1 全体の概要について

##### (1) 教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が95%以上であり、昨年度より増して、教職員自己評価が良好であること。

##### (2) 小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約92%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

##### (3) 保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約95%以上であり、好意的な評価であること。

#### 2 学校教育目標・学校経営について

- カリキュラムマネジメントについての全教職員への理解を深め、PDCAを活用しながら教育活動の改善を図っていく。
- 適材適所の人材、組織的な対応、校務支援システムの積極的な活用により、管理職を中心とした多忙化解消への取組を進めていくこと。

### 3 学校運営について

- 危機管理マニュアル見直しと充実を図り、タイムラインを意識した防災教育を充実させること。
- プログラミング教育をはじめ ICT を活用した授業について、今後の教育活動に効果的につなげていくこと。
- 校務支援システムを活用するように努め、使用に慣れ、校務の効率化を図り、児童に寄り添う時間を確保すること。

### 4 学習指導について

- 校内研究会や一人一実践、OJT を生かしながら教職員一人一人の資質・能力の向上を図っていくこと。
- 観点別評価規準を明確にした授業を行えるようにすること。
- 「家庭学習の手引き」「学びの甲斐善八か条」などを活用し、自主学習の取組など、保護者と連携をとりながら家庭学習への指導の充実を図ること。

### 5 生徒指導について

- 生き方教育の推進に関わって、外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりして、社会参画意識を高めていくこと。
- 児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、SC や SSW、市の子育て支援課、県の児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていくこと。

### 6 地域との連携について

- 安心メールとホームページを連携させることで、より効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていくこと。
- コロナ禍により今年度は十分に行うことができなかった PTA 主催行事の取組を継続し、活性化を図る策を探っていくこと。
- 「竜小協力者会議」等の地域連携事業については、次年度以降も確実に実施できるように、引継ぎを行うこと。

### 7 学校の特色に関して

- 登下校時におけるあいさつの状況の把握に努め、あいさつの大切さを実感させていく。
- 来年度以降も「チームドラゴン」として、特色のある、地域のリーディングスクールとしての役割を果たしていけるよう、全教職員一丸となって取り組んでいくこと。

## 〈学校関係者評価書〉

### 1 全体評価

- コロナ禍、学習指導要領の改訂等 例年とは違う状況下でありながら、教職員が一丸となってフルパワーで頑張ってきた一年であったことがうかがえた。

### 2 観点ごとの評価結果

#### I 学校教育目標・学校経営について

- コロナ禍でいつも以上のことをしていかなければならない一年であった中、チームドラゴンとして、教職員一人一人ができることを懸命に取り組んできた結果が評価に表れている。

#### II 学校運営について

- ベテランと若手の教職員が、互いの良さを生かしながら力を合わせ、日々の教育活動に邁進している様子がうかがえる。

#### III 学習指導について

- 観点別評価について、より保護者にもその判断基準がわかるようにしていく。
- 個人の創造力を伸ばしていく教育の必要性を感じている。

#### IV 生徒指導について

- 生活が整わない子供・食事をとらずにいる子供もいる中で、地域で力を合わせながら、子供を見守っていく必要がある。
- 子供にとって自主性が大事である。これからも、教職員に模範となる姿を示してほしい。

#### V 地域との連携について

- 地域での伝統行事、レクリエーション等の中止が続いている。子供と地域とのつながりにおいても新しい形を探っていく必要がある。

#### VI 学校の特色について

- 今年度、下を向いて挨拶する姿が多く見られた。学年が上がるにつれ、その傾向が強い。地域の方にも、きちんとあいさつができる子供たちを育てていきたい。
- コロナ禍でマスクをしていることで表情がわかりづらい。表情からは読み取れないからこそ、きちんと相手に届くあいさつを指導していくことが大切である。

### 3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実な PDCA の実施
- 適材適所の人材配置
- 危機管理マニュアルの的確な運用
- ICT を活用した授業実践の還流
- 校務支援システムの積極的な活用
- OJT の積極的な推進
- 観点別評価規準の設定とその評価方法の明確化
- 家庭学習と連携した学びの啓発
- 社会参画意識を高める生き方教育の実施
- 問題行動の早期発見・早期対応のための校務効率化と組織連携
- 安心メールと学校ホームページのより効果的な活用
- PTA 主催行事の取組の継続
- 協力者会議を中心とした地域との連携の引継ぎ
- 登下校時におけるあいさつの大切さ

#### ※特記事項

- 特になし

記載責任者：甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員 小尾 平明 印